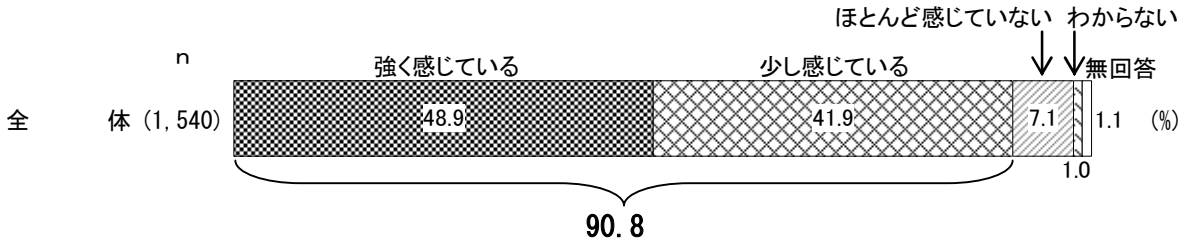
６　防災に関する取り組みについて

（１）大地震や風水害への不安

◇『感じている』が９割

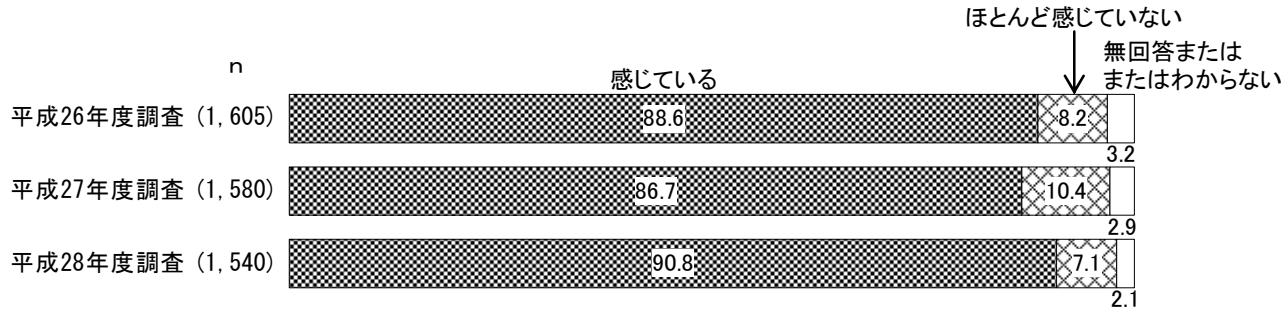
問28　平成23年３月11日に発生した東日本大震災では、千葉県内でも震度６弱を記録し、大きな被害が出ました。また、県外では平成28年熊本地震（震度７が２回発生）や、記録的な大雨や台風により浸水害や土砂災害なども発生しております。あなたは、自分の住んでいる地域で、大地震や風水害が起こるのではないかという不安を感じていますか。（○は１つ）

＜図表６－１＞大地震や風水害への不安



大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」（48.9%）と「少し感じている」（41.9%）を合わせた『感じている』（90.8%）が９割で高くなっている。一方、「ほとんど感じていない」（7.1%）は約１割である。（図表６－１）

〔参考〕平成26年度・平成27年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



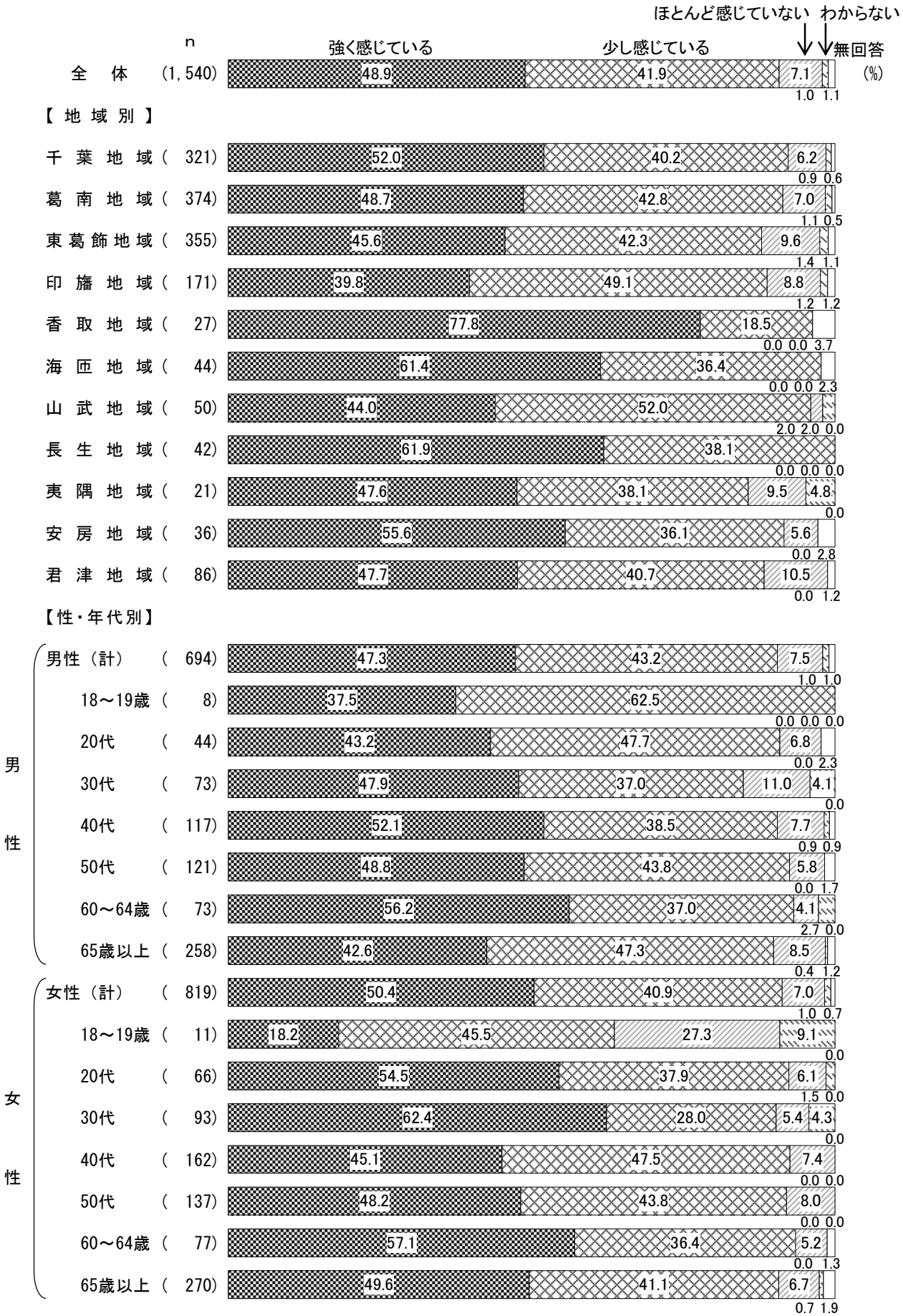
【地域別】

地域別にみると、『感じている』は“夷隅地域”（85.7%）、“東葛飾地域”（87.9%）、“君津地域”（88.4%）、“印旛地域”（88.9%）以外のすべての地域で９割以上となっている。（図表６－２）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『感じている』は男性の30代（84.9%）、65歳以上（89.9%）と女性の18～19歳（63.7%）以外のすべての年代で９割以上となっている。（図表６－２）

＜図表６－２＞大地震や風水害への不安／地域別、性・年代別

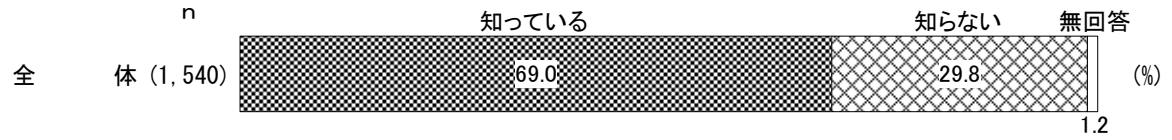


（２）「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度

◇「知っている」が約７割

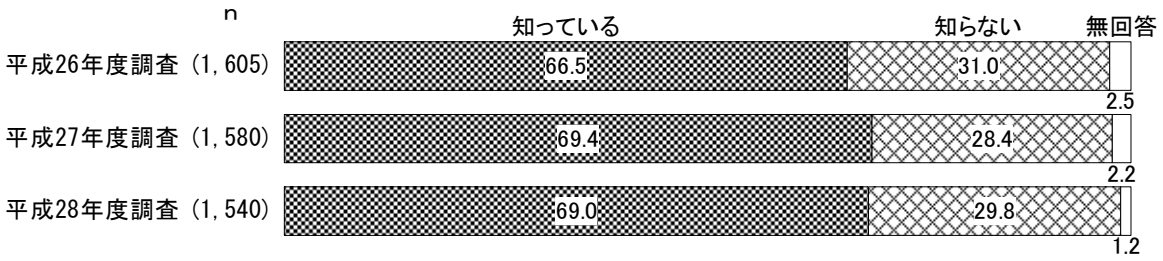
問29　市町村では、災害から住民を守るために「避難勧告」や「避難指示」を発令することがあります。あなたは、これらの意味や違いを知っていますか。（○は１つ）

＜図表６－３＞「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度



「避難勧告」「避難指示」の意味や違いを知っているか聞いたところ、「知っている」（69.0%）が約７割で高くなっている。一方、「知らない」（29.8%）は約３割となっている。（図表６－３）

〔参考〕平成26年度・平成27年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



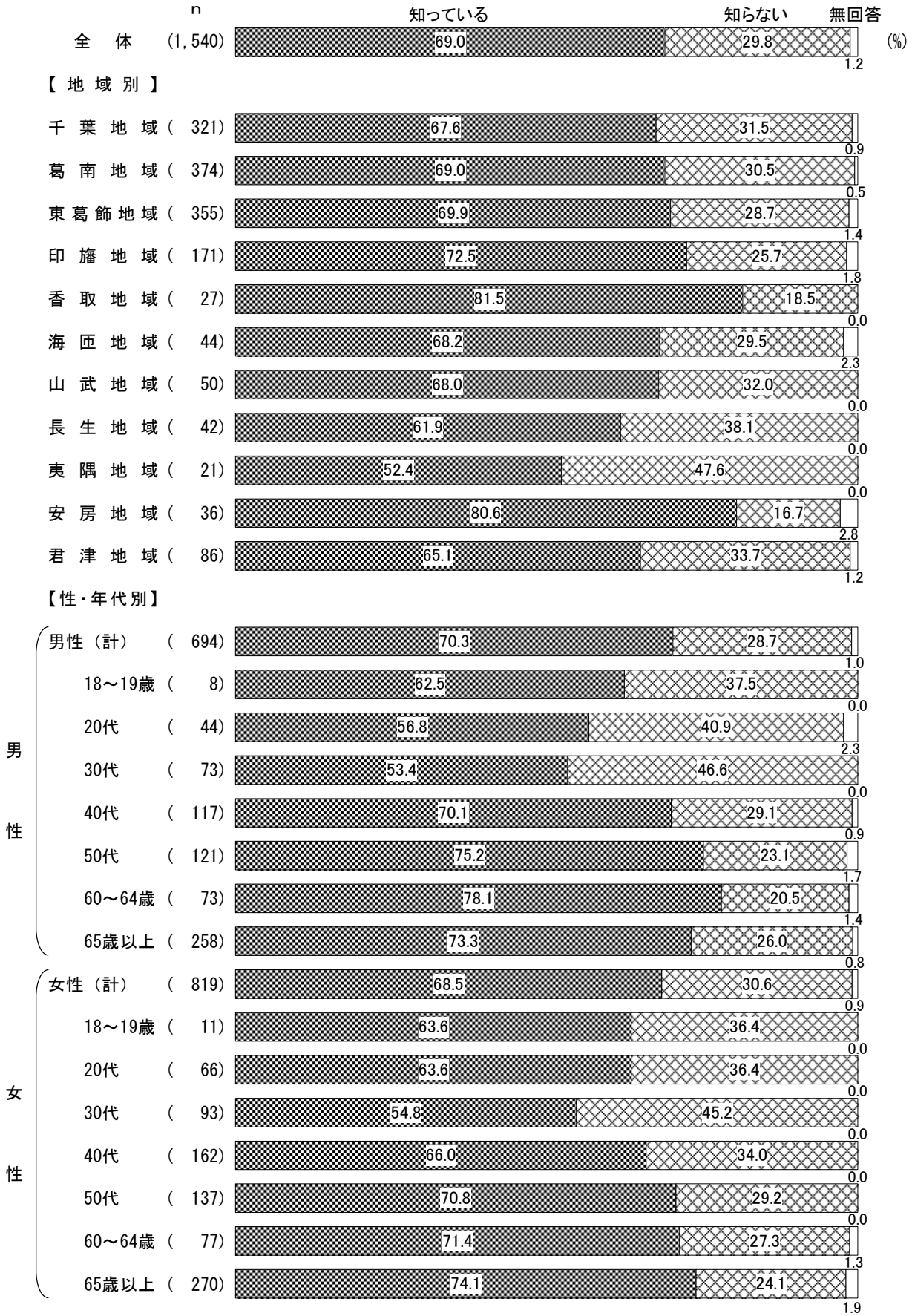
【地域別】

地域別にみると、「知っている」は“香取地域”（81.5%）が８割を超え、“安房地域”（80.6%）が８割で高くなっている。一方、「知らない」は“夷隅地域”（47.6%）が約５割で高くなっている。（図表６－４）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は男性の60～64歳（78.1%）が約８割、男性の50代（75.2%）と女性の65歳以上（74.1%）が７割台半ばで高くなっている。一方、「知らない」は男性の30代（46.6%）と女性の30代（45.2%）が４割台半ばで高くなっている。（図表６－４）

＜図表６－４＞「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度／地域別、性・年代別

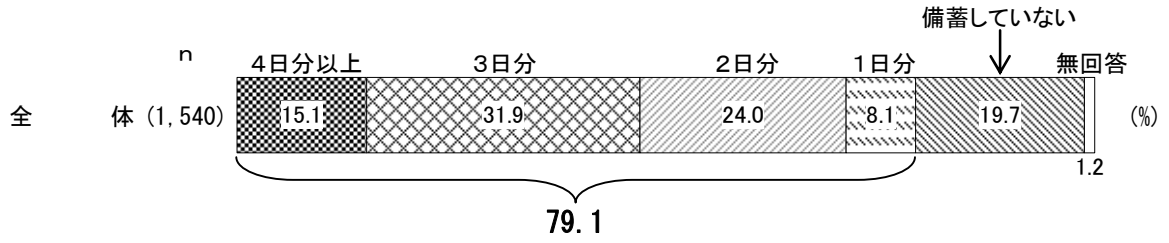


（３）飲料水や食料の備蓄状況

◇『備蓄している』が約８割

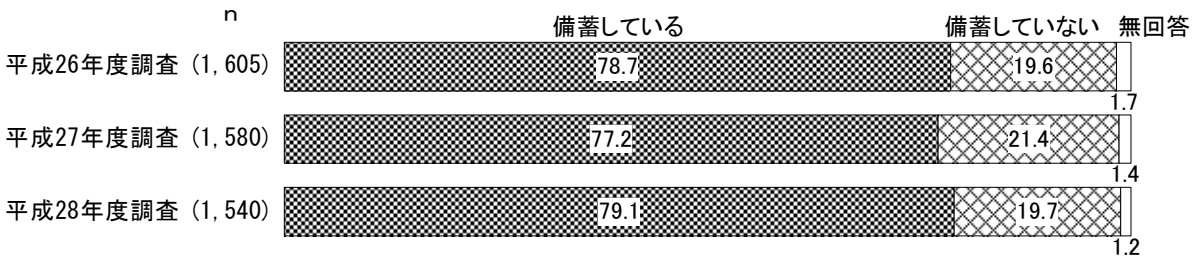
問30　大規模な災害が発生した場合、避難所に飲料水や食料などの支援物資が届くまで時間がかかることが予測されます。あなたは、災害に備えて、冷蔵庫にあるものを含めて、飲料水や食料をおよそ何日分、備蓄していますか。（○は１つ）

＜図表６－５＞飲料水や食料の備蓄状況



飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「３日分」（31.9%）が３割を超え、「２日分」（24.0%）が２割台半ば、「４日分以上」（15.1%）が１割台半ば、「１日分」（8.1%）が約１割となっており、この４つを合わせた『備蓄している』（79.1%）が約８割となっている。一方、「備蓄していない」（19.7%）は約２割となっている。（図表６－５）

〔参考〕平成26年度・平成27年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



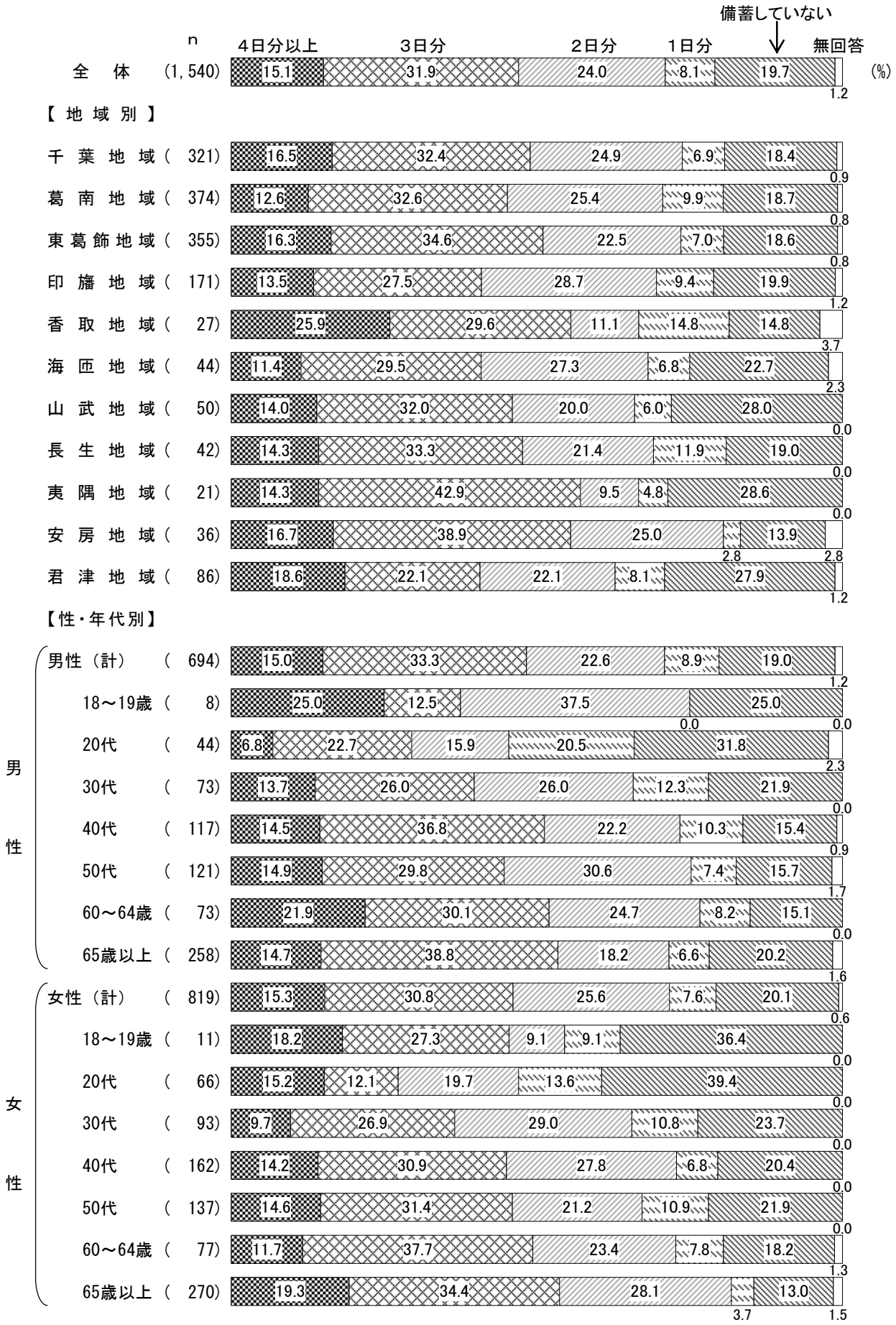
【地域別】

地域別にみると、『備蓄している』は“安房地域”（83.4%）と“香取地域”（81.4%）が８割を超えて高くなっている。（図表６－６）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『備蓄している』は男性の40代（83.8%）、60～64歳（84.9%）と女性の65歳以上（85.5%）が８割台半ばで高くなっている。一方、「備蓄していない」は女性の20代（39.4%）が約４割で高くなっている。（図表６－６）

＜図表６－６＞飲料水や食料の備蓄状況／地域別、性・年代別

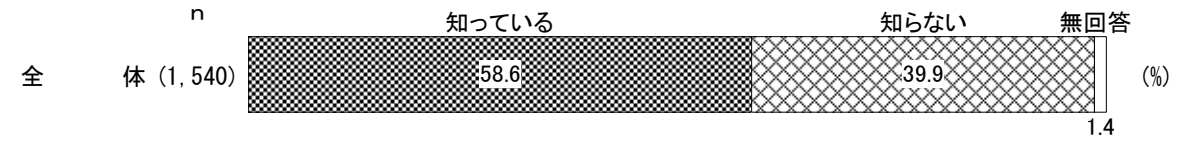


（4）災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

◇「知っている」が約６割

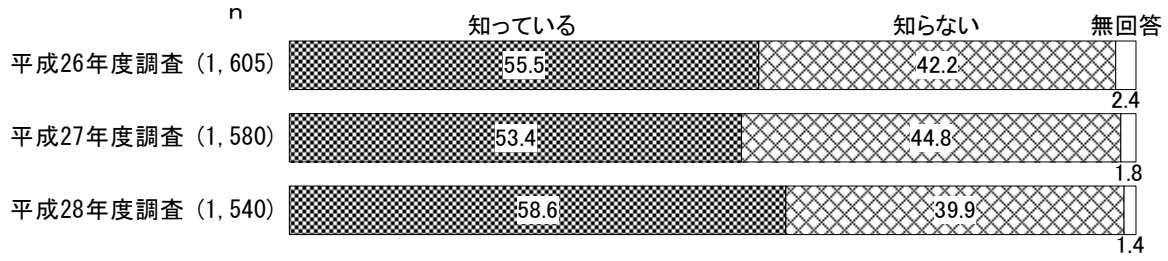
問31　固定電話や携帯電話（音声及びメール）は、災害が発生した際には利用が急増し、平常時のように使用できなくなります。実際に東日本大震災でも、使用できなくなりました。
あなたは、災害時に利用できる災害伝言板や災害用伝言ダイヤルを知っていますか。
（○は１つ）

＜図表６－７＞災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度



災害伝言板・災害用伝言ダイヤルを知っているかを聞いたところ、「知っている」（58.6%）が約６割となっている。一方、「知らない」（39.9%）は約４割となっている。（図表６－７）

〔参考〕平成26年度・平成27年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



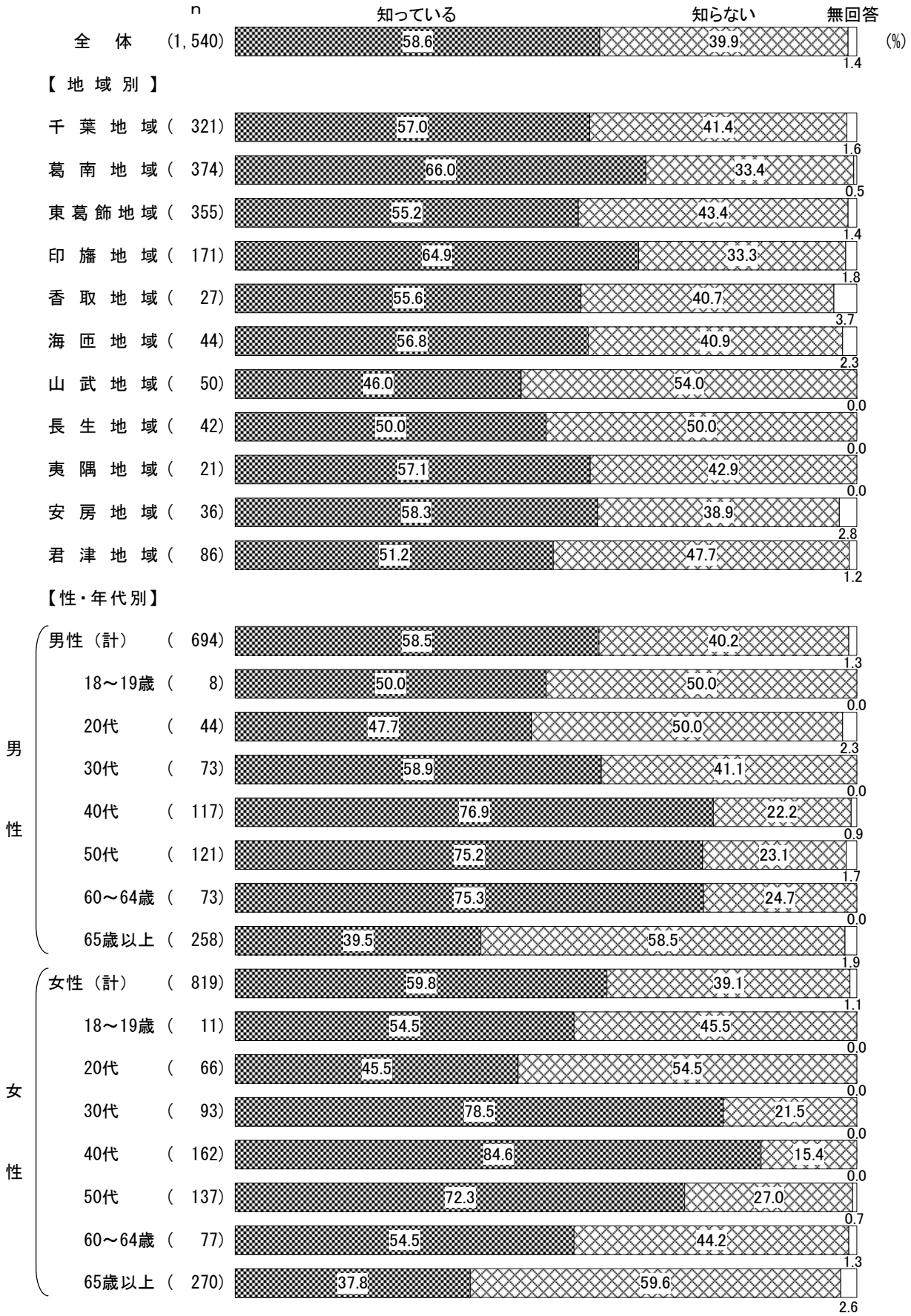
【地域別】

地域別にみると、「知っている」は“葛南地域”（66.0%）と“印旛地域”（64.9%）が６割台半ばで高くなっている。（図表６－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は女性の40代（84.6%）が８割台半ば、女性の30代（78.5%）が約８割で高くなっている。一方、「知らない」は男性の65歳以上（58.5%）と女性の65歳以上（59.6%）が約６割で高くなっている。（図表６－８）

＜図表６－８＞災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度／地域別、性・年代別

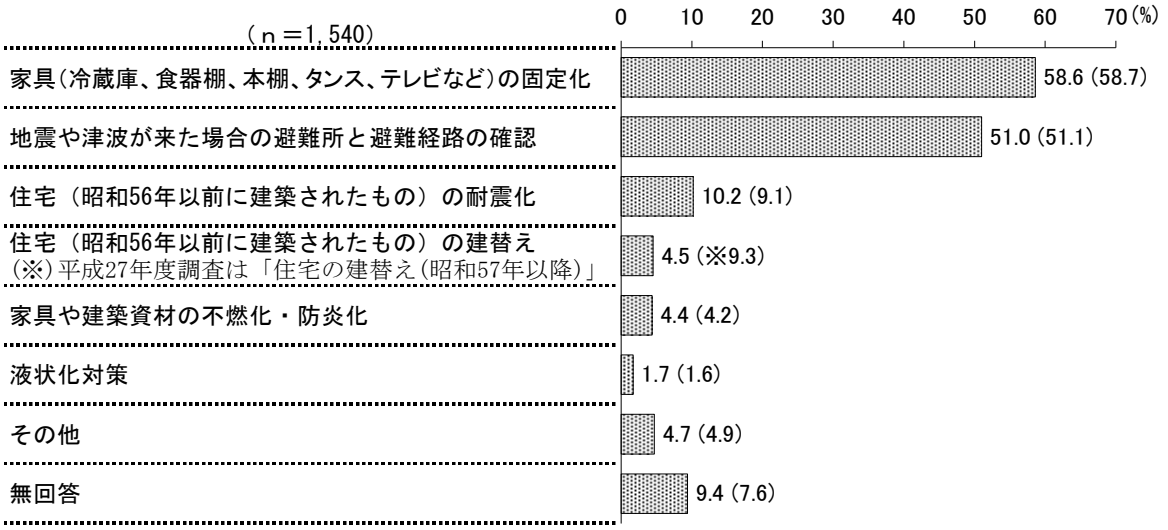


（５）地震の被害を防ぐための対策

◇「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」が約６割

問32　あなたは、地震による被害を防ぐため、どのような対策を行っていますか（行う予定ですか）。（○はいくつでも）

＜図表６－９＞地震の被害を防ぐための対策（複数回答）



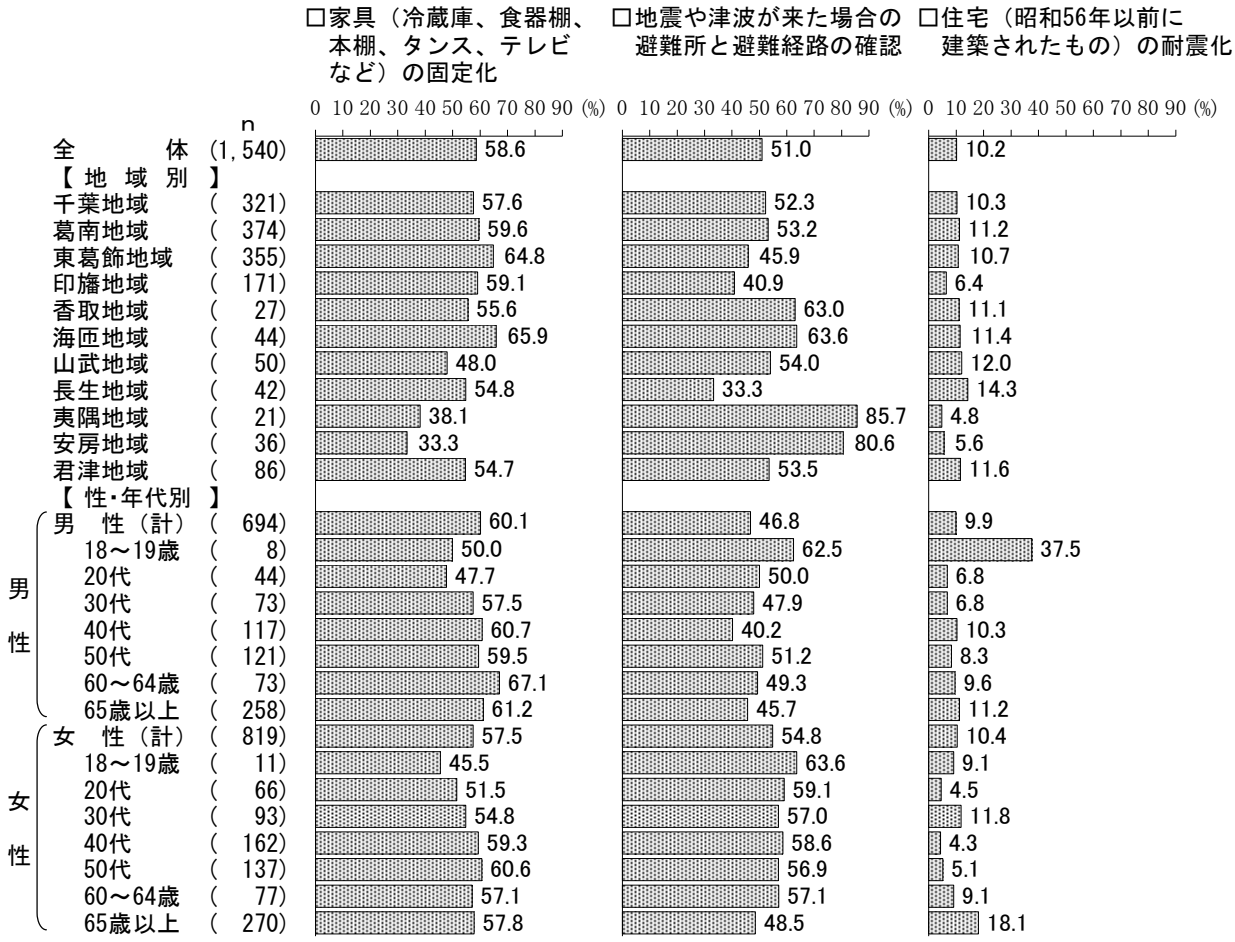
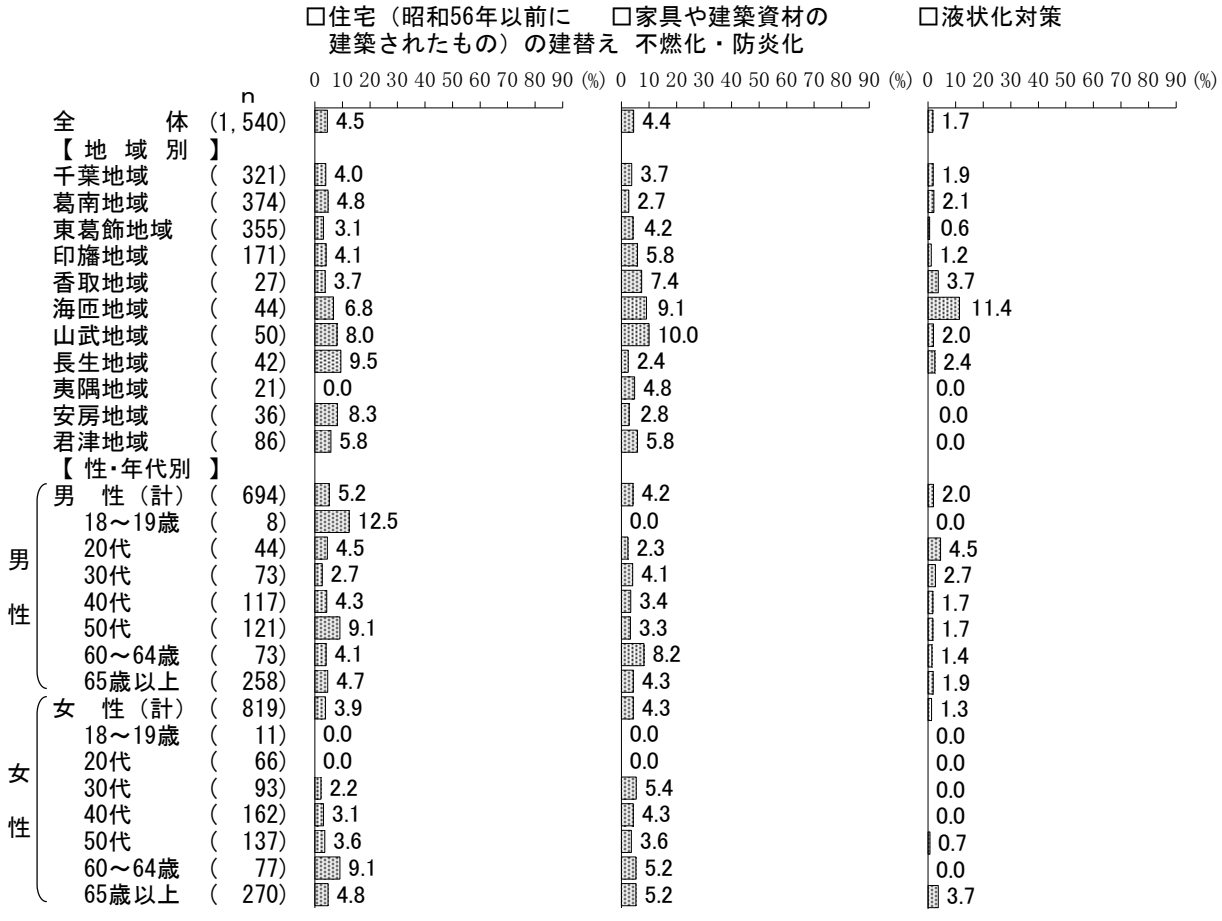
注）（　）の数字は平成27年度の同様の項目による調査結果　ｎ＝1,580

地震の被害を防ぐため、どのような対策を行っている（行う予定）か聞いたところ、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」（58.6%）が約６割で最も高く、以下、「地震や津波が来た場合の避難所と避難路の確認」（51.0%）、「住宅（昭和５６年以前に建築されたもの）の耐震化」（10.2%）が続く。（図表６－９）

【地域別】

地域別にみると、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」は“海匝地域”（65.9%）と“東葛飾地域”（64.8%）が６割台半ばで高くなっている。「地震や津波が来た場合の避難所と避難路の確認」は“夷隅地域”（85.7%）が８割台半ば、“安房地域”（80.6%）が８割で高くなっている。（図表６－10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」は男性の60～64歳（67.1%）が約７割で高くなっている。（図表６－10）

＜図表６－10＞地震の被害を防ぐための対策／地域別、性・年代別